

20. (Gno.46) 国際法過程の研究 (国際関係法研究会)

代表：宮野 洋一

2002/02/12 (承認) 2002 年度 (開始)

【研究の目的】

具体的な国際法のルール、たとえば条約の、形成、実現、紛争処理に関わる諸問題を、対内・対外両側面に涉り多面的に検討することを通じて、裁判や法解釈にかたよらない、国際法過程の動的な全体像を解明する。

【研究活動及び成果】

総括

国際法の基本理論に関わる諸問題 (法源論、下部構造との関係性、国家承認と大使館の移転)、および、国際組織に関わる最近の問題 (WTO 上級委員会問題、ICC)、さらに、従来よりの課題の一環である国際法の文化面 (文化財、言語) という多面的な問題について、それぞれの国際法過程の問題点について討議・検討を行った。

口頭発表

2020 年度中央大学国際関係法研究会 としてオンラインで開催

83th 2020 年 7 月 25 日

西谷 齊 (近畿大学法学部准教授) 「国際法における形式主義の動揺と再生」

小寺 智史 (西南学院大学法学部教授) 「現代国際法学におけるランス学派の形成と展開」

84th 2020 年 12 月 17 日

大塚 敬子 (獨協大非常勤講師) 「文化財の「返還」に関する一考察」

西海 真樹 「国際法は言語をどのように保護しているか？」

85th 2021 年 1 月 30 日

山田和花奈 (外務省中南米局南米課) 「WTO 上級委員会問題の経緯と解決に向けた一考察」

荒木 一郎 (横浜国立大学教授) : コメンテーター

86th 2021 年 3 月 13 日

尾崎 久仁子 (元国際刑事裁判所判事) 「国際刑事法における被害者の地位」

目賀田周一郎 「米国大使館エルサレム移転事件」